

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070702800		
法人名	有限会社ケア・サービスさかえ		
事業所名	グループホームこころ		
所在地	北九州市八幡西区木屋瀬二丁目7番8号		
自己評価作成日	平成27年8月12日	評価結果確定日	平成27年9月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成27年8月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所時から町内会や商工会に加盟し地域の行事に参加して、グループホームの存在を理解していただき、木屋瀬のボランティアの方々にイベントに参加していただいています。 木屋瀬祇園山笠や宿場祭り等に参加したり見学したりと、地域との交流を大切にしています。 又、敬老会には、木屋瀬のボランティアの方の大正琴の演奏会をお願いしている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域住民でもある管理者は、理念に「地域の中の一帯」を掲げ、日常的な良い関係を構築している。 自治会の組費の集金や回覧板を回したり、地域祭りや敬老会等の行事に参加し、離所の入居者に気づいた地域の方からの連絡で事なきを得たり、オムツがあるので使ってください等の声かけもある。実習生の受け入れやボランティアの来所も継続している。そして、モニタリングで把握したその時々入居者や家族の思いや意向を、率直な言葉で記載した個別性の高い計画を作成し、幾つになっても恥ずかしいとの声を大切にケアや手を叩いて尿意を知らせてくれる入居者の排泄の支援に取り組んでいる。家族による終末期に対する相談もあり、過去の看取り体験の学びから、状態の変化に応じた意思確認を医師を交えて家族と話し合いながら進めている。運営推進会議の活用や市町村との連携も充分にあり、今後もさらなる理念の具現化が期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名 **グループホームこころ**

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見やすい場所に掲示し、定期的に行なう社内ミーティングで話し合いをしている。	代表は「地域の中の一世帯」としての理念を常に念頭に置いている。いつも笑顔で心がけ、入居者からよく声をかけてもらえるようになり、毎日見られる入居者の笑顔で理念の実践を確認していると職員は話している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	可能な限り地域の行事に参加している。ホームに住所を移している方は、地域の敬老会に参加している。	地域の中の一世帯を目標に、自治会へ加入し、組費の集金や回覧板を回し、住民の相談やオムツが余ったので使ってください等の声掛けもあり、日常的に良い関係が構築されている。又、実習生の受け入れやボランティアによる交流も継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営会議に参加している民生委員や、市の職員方との話し合いをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス向上に活かせるように、努めている。	民生委員や地域包括支援センター職員、家族、時には入居者が参加して定期的に開催されている。花見の感想を聞かれ、「きれいで気持ち良かった」などと入居者が答えたり、避難訓練に地域の人や消防団も一緒にやってはどうか等、意見交換の様子が丁寧に記録されて、開示されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営会議に参加している市の職員の方に、ホームの空室状況を伝え、地域で困っている方が居ないか等たずねている。	社協からの研修案内、4月から利用している市のサービス相談員派遣などの情報交換や、必要に応じて助言を受けるなど、相互の交流が図れて良い関係が維持できている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内・外での研修に参加し、身体拘束を行わないケアに努め、身体拘束ゼロ委員会を組織している。離所の防止にチャイムを設置し、その時々に応じ、玄関は施錠している。	職員から玄関センサーのチャイムも拘束にあたらないかなど意見が出され、検討している。入居1年目に落ち着かず離所された方には、その後はソワソワの気配を察知し、コインランドリーへ誘って洗濯物たたみをしたり買い物に出かける等気を紛らわす工夫や声掛け、見守りで、拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内や社外での研修に参加し、高齢者虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市のパンフレットを活用したり、社外の研修会に参加している。	毎年、制度についての研修は受講し、ホーム内で伝達して知識の共有を図っている。情報提供の為に資料も整備しているが、現在制度の利用者はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解をいただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、いつでも投函できるが、前例はない。 毎年、家族アンケートを実施し要望等を聞き取りしている。	「こころ便り」で入居者の表情や行事の状況を伝えたり、月々の家族来所時に声を掛ける等、家族が話しやすい雰囲気作りに努めている。家族アンケートでは感謝の言葉や行事に対する意見もあり運営に反映する機会と位置づけている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行なう社内ミーティングで、要望や提案を尋ね職員が意見しやすい職場環境に努めている。	毎月のミーティングでは活発な意見交換が行われ、議事録で情報を全職員が共有して、ケアや運営に反映させている。ホーム便りの内容や行事への提案があり、入居者と家族などの関係づくりでは入居者による家族・友人への便りの作成に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の能力に応じ業務を任せている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢、性別は問わず募集しているが、思うように人材確保ができていない。	退職が相次ぎ、ハローワーク等で募集し採用予定である。6年、8年就労している職員もあり、職員間の相談や新人に対する指導も丁寧に行われている。休憩が取れないときは昼食後の入居者と一緒にしゃべりしながら寛いでいる。雰囲気が良かったので就職を決め、やりがいを感じて資格取得も目指している職員もいる。	永年就労している職員が新人教育に携わり、ホームの魅力を共有できる職場づくりで、入居者や職員其々の社会参加や自己実現が促進されることを期待します。
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎年人権週間に研修を行っている。	同業者協議会や市の主催による人権に対する研修に参加し、受講者による伝達講習を行っている。全職員が理解を深め、実践に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	社外研修に参加できる機会が、減っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取組みをしている	グループホーム協議会に加入し、各種研修 や管理者会議に参加している。協議会主 催のイベントにも参加した。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困って いること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、 本人の安心を確保するための関係づくりに努めて いる	可能な限りご本人やご家族の方との面談を 行い希望や要望等聴いている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が 困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けな がら、関係づくりに努めている	初回の相談時(電話・訪問)から詳しくお話 しを聴き、可能な限りご本人にも見学に来て いただいている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等 が「その時」まず必要としている支援を見極め、他 のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じ他のサービスや施設の検討をす ずめている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	業務を優先する事ないように常に心がけ一 緒に過している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	訪問時はもちろん必要に応じて電話での現 状報告(日常的な出来事や急変時等)し、 ホームのアルバムを回覧したり年に3～4回 はホーム便りを配布している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方や友人関係の方宛に本人が書いた手紙を定期的に出せるようにしている。	入居者家族に理・美容師があり、調髪に來所されている。また、家族や友人へのお便り支援に取り組み、「また会いに行きます」等の返事が届き、写真とともに壁に飾るなど、馴染みの方との温かな関係が維持されている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がふれ合えるような環境や雰囲気作りを職員も心掛けている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お手紙を定期的を送っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人及びご家族の方に希望を聞き、出来る限り希望に応じられる様に取り組んでいる。	職員は、意思表示の困難な入居者のそばに寄り添うことで入居者の思いがわかると話している。外に出てみたい、どこかに行きたいなどが叶えられた入居者の笑顔が、次の思いや意向の把握に繋がっている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方やご本人に生活歴等を聞き取り職員全員で把握するように個人ファイルに綴じている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に心がけ現状はどうなのか観察し、日々記録している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活歴等の情報を収集ご本人や、ご家族の意見や要望を取り入れ、介護計画を作成している。	定期的なモニタリングで把握したその時々入居者や家族の思いや意向を、率直な言葉で記載した個別性の高い計画を作成している。幾つになっても恥ずかしいと言われる方への羞恥心への具体的な配慮等を計画し、実践している事例もある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人とのやりとりを行なった介護等を詳細に記録している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り柔軟に対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の能力に応じ、家事や買い物等できる様に支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に応じて入居前のかかりつけ医を継続しているが、現在はホームでの往診者が多い。	2名の入居者の家族と医療機関で待ち合わせして、受診を支援している。家族が対応しきれず、ホームの協力医療機関による往診を希望し、かかりつけ医が変更することが多い。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護記録とは別に気づきノートを活用し個人の情報を伝達している。 常に看護師へ報告・連絡・相談し健康や安全に配慮したケアを行なっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はこまめに脚を運び状態や経過の情報を得ている。 早期退院に向けたマニュアルを作成		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療的な場合は病院への搬送が多いがご本人や家族の意向を入居時に確認し1年に1回再確認している。	入居時には終末期についての意向を確認し、同意書を交わしている。過去の看取り体験の学びから、状態の変化に応じた意思確認を医師を交えて行っている。最近入居の家族より、終末期ケアの相談を受けているが、家族と話し合いながら進めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時マニュアルを作成し見やすい場所に掲示してある。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時避難マニュアルを作成し避難訓練を利用者と共に行っている。 10月に夜間想定避難訓練を予定	消防署より火災・地震・洪水夫々に対処出来る避難訓練の指導を受け、年3回実施している。また夜間想定訓練は2年毎で10月に実施予定である。訓練後の報告や指導など消防署との連携も良く、リースのAEDも設置し、職員は研修を受けている。玄関には備蓄品などを詰めた非常時持出しのリュックが置かれている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしい暮らしが継続出来る様に、常に配慮し行なっている。	「介護する」の視点ではなく入居者の笑顔と人格を大切にしたいケアを実践している。呼称は個人も納得し、しっくりする呼び名で声掛けをしている。幾つになっても恥ずかしいとの声に、入浴、排泄時のケアや入り口のドアの開閉の際は、プライバシーにも配慮している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人との対話に基づき個人を第一に考え支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活を送れるように心がけているが比較的自由に過ごしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用している方が多い。 ご家族の方がカットに来てくれる。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の形状や自助具の工夫、食事時の姿勢等個人に合わせている。 食事介助の方が多く、朝食を行いゆっくり個人のペースで食べていただいている。	木の温もりのあるテーブルに職員も弁当を持参し、入居者と同席で声掛けや見守りながらの食事風景である。個々の摂取状態に合った形で軟飯、粥状など工夫され、「青魚が苦手な鯉にしてみたら」と、鯖の煮物を指して話す入居者があった。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士に献立を作成をお願いし栄養バランスは十分である。食事量や水分量は1日を通じ記録を残している。その日の気分で食事(ご飯)が摂れない場合は、好みの食べ物を捕食している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、個々に応じた介助等を行って行っている。又歯科衛生士による指導も取り入れ歯磨きが困難な方には、スポンジを使用しイソジンウガイ薬で口腔内を消毒をしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人の排泄パターンをチェックしその都度トイレでの排泄を心がけている。	要介護4で尿意を手を叩いて知らせるオムツを使用している入居者もあり、職員はその合図を見逃さないようにして、トイレやポータブルトイレでの排泄を支援している。また長期留置カテーテル管理を支援したり、トイレには清拭用温タオルが常時置かれている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為に、こまめに水分補給をしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	2～3日のペースで入浴している。 毎日お風呂にお湯を入れるので、いつでも入浴は可能である。	浴室の入り口に入浴予定者表が掲示されているが、その日の個々の状況で翌日へ変更する等柔軟に対応している。立位困難な入居者もお湯に浸かって入浴を楽しんでもらえるよう職員が2人体制で支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や気分に合わせて外気浴や散歩等行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医からの処方された説明文を個人ファイル綴じ周知している。 また処方の変更があった場合は看護師から介護職員に伝達している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の能力に合わせて役割分担している。 ペット等の世話、花壇の水やりや台所のお手伝い等		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に外出の機会をスケジュールに入れているが、重度の利用者が多く、外出機会は少ない	季節の花見や地域の祭り見物は恒例だが、今年は夏場の外出の少ない時期に夏祭りをと同業者協議会で企画し、日頃はないような入居者の活気ある様子が見られている。木屋瀬祭りで外出した際に、自宅へ立ち寄った入居者が久しぶりに帰ったと感激される場面もあった。外に出てみたいの希望には近くのスーパーや愛犬「こころ」との散歩などで、入居者の思いを支援している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、金銭を持参している方はいない。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	その都度対応している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や飾り物又は利用者が創作した壁画等を飾っている。 イベントの写真等飾っている。	ワンフロアの共用空間で、外の景色や採光が明るい窓際にはテレビ、ソファが置かれゆっくりとした寛ぎの時を過ごし、中央のテーブルでは、食事やゲーム・手芸などを楽しむ空間となっている。壁の掛け軸や写真は入居者の目線に合った位置に掛けられ、居心地の良い空間となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居心地の良い場所を確保している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各自居室には自宅で使用していた馴染みのあるベッドや整理筆筒等を持ち込み生活している。	居室の入り口には大きな文字で書かれた表れと造花が飾られている。使い慣れた家具やベット、家族写真、自作の手芸品などが夫々飾られ、外出の為にバックや上着がハンガーに掛けられ、本人に合った居心地の良い居室となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで各所に手摺りを設置しトイレや居室には表れを付け出来る限り自立した生活を送れるようにしている。		